

これで解決! Office 365 導入のススメ

BCP & コンプライアンス対策 編

災害時の事業継続や
コンプライアンス対策の強化について、
ご検討中の企業の皆様へ

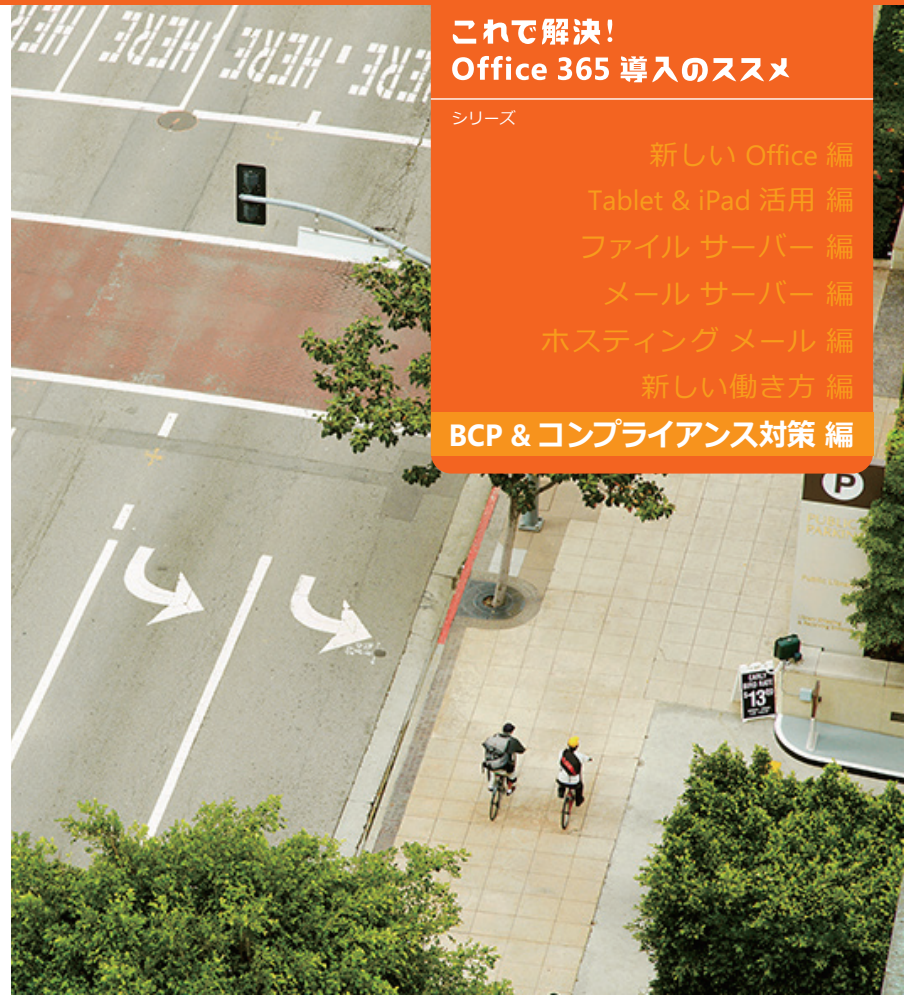


これで解決!
Office 365 導入のススメ

シリーズ

- 新しい Office 編
- Tablet & iPad 活用 編
- ファイル サーバー 編
- メール サーバー 編
- ホスティング メール 編
- 新しい働き方 編

BCP & コンプライアンス対策 編



■ 貴社の BCP (事業継続計画) 対策やコンプライアンス対策、こんな不安はありませんか？

1. 災害時の事業継続の悩み

ファイル サーバーやメール サーバーには膨大かつ重要なデータが保存されているため、自然災害やサーバー故障が起きると、すべての業務が停止してしまう。これにより事業に甚大な損失が出る可能性も...



2. 災害時の社員との連絡手段の悩み

東日本大震災の時、オフィスの被災や交通手段の乱れによって、出社できなかった。また災害時は、一般の電話や携帯電話も不通になってしまう場合がある...



3. 情報漏えい対策の悩み

個人情報の保護も、ビジネス継続の必須条件。万一個人情報が漏れてしまえば、取引先や社会からの信頼失墜は必至です。最近では入札条件に「プライバシー マーク」や「ISMS」の取得が義務付けられるケースも...



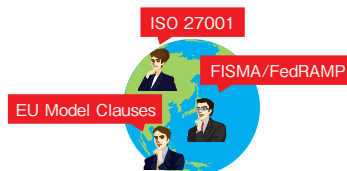
4. 内部統制の悩み

企業不祥事なども相次ぐ今、J-SOX 法によって内部統制が義務付けられている上場企業はもちろん、中小企業にとっても内部統制の仕組みは安全な企業活動の基盤として不可欠。必要なデータやメールなどを整理された状態で安全に保持できるようにしないと...



5. 海外事業展開の悩み

今後は海外でも事業展開を計画。でもその場合には、各国のセキュリティ要件にも対応しないと...



6. コストとのバランスの悩み

どんどん強まっていく BCP やコンプライアンス対策に関する要請。とはいえ、リソースと予算が限られているので、内部統制に時間と予算を割けない。低コストで事業継続対策やコンプライアンス対策がきたらいいのに...



BCP 対策や
コンプライアンス
対策ができて
いないと...



■ そもそも BCP (事業継続計画) 対策やコンプライアンス対策はなぜ重要?

BCP 対策ができていないと?

東日本大震災の悲劇から 4 年。あの直後、BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) 策定を真剣に考え始めた企業は急速に増加しましたが、多くの中小企業では依然として BCP 対策ができていない状態です。BCP 対策ができていないと、たった 1 回の災害や事故で「業務の停止」や「重要データの損失」など、企業存続の危機に面してしまいます。大事な会社と社員、お客様をリスクにさらさないために、BCP 対策は非常に重要といえます。

コンプライアンス対策ができていないと?

コンプライアンスとは、「法令順守」はもちろん「企業の社会的責任」を含む企業が守るべき姿勢という意味で使われます。

コンプライアンス対策ができていないと、どんなに優れた事業業績を残しても、法律違反による罰則や不祥事による社会的信頼の低下など、BCP 同様に企業存続の危機を招いてしまいます。

コンプライアンス違反の例

- 機密情報漏えい
- 不適切な情報提供 (部署や個人によって、情報内容に差異があるなど)
- コンプライアンス監査への非対応

Office 365 により、リーズナブルな価格で BCP 対策やコンプライアンス対策を実現しましょう

企業の存続そのものに関わる BCP 対策やコンプライアンス対策。とはいえ高額なソリューションを導入しなければいけないということでは、実現は非現実的になってしまいます。

Office 365 は、Microsoft Office、メール、情報共有基盤などを提供するクラウドサービスで、月額わずか 220 円から利用可能。BCP 対策とコンプライアンス対策の両方を実現する機能を豊富に含んでおり、中堅中小企業の BCP 対策やコンプライアンス対策に最適です。

さらに、2014 年 12 月の日本でのデータセンター開設により、**日本のお客様はすべて日本のデータセンターからのサービス利用**となり、データはすべて日本国内で保持しているため、さらに高い信頼性の提供を実現しています。

BCP 対策やコンプライアンス対策の第一歩として、Office 365 のご導入をご検討ください。

- 「信頼できるクラウド サービス」詳しくは下記をご覧ください。

<http://aka.ms/mstrust>

Office 365 で
BCP 対策と
コンプライアンス
対策を実現!

Next

■ Office 365 って何? どんなことができるの?

Office 365 とは

Office 365 は、Word、Excel、PowerPoint などの Office アプリケーションとクラウド グループウェアをセットにした、サービス型の Office です。Office アプリケーションを従来通り PC にインストールして使えることはもちろん、Exchange Online によるメール・スケジュール・連絡先管理、SharePoint Online による情報・ドキュメント共有、Skype for Business Online によるオンライン会議も可能です。また大容量 1 TB のオンライン ストレージも標準提供。社内ソーシャルを実現する Yammer もご利用いただけます。



災害や事故に強い、 安全で安心なクラウド サービス

万一の災害や事故の場合でも、マイクロソフトがデータセンターを運営しているため、データは失われることはありません。データセンターは稼働率 99.9% を誇る、返金保証制度のあるサービスを利用しています。また、世界標準の規格にも対応するなど、第三者機関の認定制度を継続的に取得し続け、信頼性の確保に努めています※。さらに、お客様のデータは、お客様に属するものとして大切に保管するため、マイクロソフトのコンシューマー サービス (Windows Live) とはデータセンターを分けて管理。お客様のデータをマイクロソフトが他の目的で勝手に覗いたり利用したりすることは一切ないことを明文化するなど、プライバシーの保護対策も行っています。

※ ISO27001 (運用管理や情報資産の保護に対する情報セキュリティ管理システムの標準規格)、SAS70 Type II (顧客に属するデータの運用と処理に関する制御と安全策に対する認証)、HIPAA (アメリカの医療機関における患者情報の取扱いに関する法律)、FISMA (連邦情報セキュリティ マネジメント法)、EU Model Clauses (EU および欧州経済地域以外の国への個人情報移送に関するモデル契約条項) を取得しています。

セキュリティ
機能や
コンプライアンス
対応も!



■ 高度なセキュリティ機能を装備。各国の法令・指令にも対応しています。



1. 災害時の事業継続の悩みを解決!

社内サーバーはもはや不要。データはすべてマイクロソフトが運用する日本のデータセンターに保存され、自動バックアップされているので、サーバーの故障でデータが失われる心配もありません。面倒なバックアップ運用も不要になります。これにより万が一の災害時でも、安心して業務を継続することができます。



2. 災害時の社員との連絡手段の悩みを解決!

インターネット経由でアクセスできるため、いつでもどこでも業務を遂行でき、オフィスが被災した場合や、交通手段が使えない場合でも、自宅で仕事を継続可能。インターネットさえつながれば、相手の顔を見ながら会話できるテレビ会議やインスタントメッセージング (IM)、社内 SNS など使えるため、社員の安否確認も容易になります。



3. 情報漏えい対策の悩みを解決!

通信の暗号化やアクセスコントロール、データ二次利用の防止、スパムメール対策など、情報漏えいを回避するための各種セキュリティ機能を備えています。またマイクロソフトのデータ処理契約は、お客様のプライバシーとセキュリティへの包括的な取り組みや、各地域の規制遵守を支援する内容になっています。



4. 内部統制の悩みを解決!

機密データの特定、監視、保護を支援するコンテンツ分析機能、電子情報を保持するためのアーカイブ機能、民事訴訟の必要となる e-ディスカバリー (電子証拠開示) 機能も備えています。



5. 海外事業展開の悩みを解決!

世界的に使用される多数の業界標準や認定を満たしているか否かを、第三者機関によって監査しています。また、さまざまな業界の規制を満たすために、600 を超える「コントロール」をサポートしています。その中には ISO 27001 や EU モデル条項、HIPAA ビジネス アソシエート契約、FISMA/FedRAMP などが含まれます。



6. コストとのバランスの悩みを解決!

Office 365 は、多くの大企業が導入する BCP やコンプライアンス対策のための安全で管轄対策にも優れたシステムを、1 ユーザーあたり月額 220 円から利用できる低コストのサービスで、コスト面でも安心してご利用いただくことができます。※ 利用料金はプランによって異なります。プラン一覧ページの「Office 365 プラン比較」またはその他の各種プランはこちらをご確認ください。↓

<http://aka.ms/po365plan>

他には
どんな
メリットが
あるの?

?

Next



■ 安全性の高いメール & スケジュール。

Exchange Online ならいつでもどこでもメールが利用できるだけでなく、メール データを保全する自動バックアップ機能や誤送信防止機能なども装備。BCP はもちろんのこと、コンプライアンスにも貢献します。



メール データを確実に保全

メール データをデータセンター内の複数のデータベースに、自動的にバックアップ。データセンターに障害が発生した場合でも、データが自動的に別のデータセンターに転送され、データが保護されます。さらに、コンプライアンスに貢献するメールアーカイブ機能もご用意しています。



余裕のメールボックス サイズ

メールボックス サイズは 50 GB。添付ファイル付きのメールをどんどん保存しても、そう簡単にはいっぱいになりません。また送受信可能なメールの最大容量も 25 MB なので、大容量の添付ファイルも気軽にやり取りできます。



5 種類の誤送信防止機能を標準装備

メール誤送信は情報漏えいの大きな原因の 1 つですが、Exchange Onlineならこの問題も解決できます。組織外の受信者を To/CC に指定すると警告を発する「メールヒント」、送信ボタンを押した後指定した時間だけ送信を遅らせる「遅延送信」、状況に合わせてメール送信時の処理内容を指定できる「トランスポートルール」、個人情報等の機密情報を自動検出する「データ損失保護」、メール内容を暗号化する「Office 365 Message Encryption」の 5 つの機能によって、メールによる情報漏えいを防止します。



複数のデバイスでも一貫性を維持

Exchange Online なら、クラウド上に保存されたメールを、PC や各種デバイスから見に行くスタイルに変わります。ネットワークに接続できない環境でも、デバイスとのデータ同期を行うことで、メールボックスの参照が可能。複数の PC やデバイスを使った場合でも、常と同じメールボックスが利用できます。



いつでもどこでもメールにアクセス

インターネット経由でアクセスできるため、いつでもどこからでもメールボックスを利用できます。



他の人のスケジュールも一目瞭然

予定表で確認できるのは、自分の予定だけではなく、グループメンバーの予定も一覧表示で確認可能。関係者のスケジュール状況を見て、会議を設定するといったことも、短時間で行えます。



情報共有と共同作業のあり方も変わります!



■ セキュアな情報共有と共同作業。

SharePoint Online には、情報共有、共同作業を安全に行うための、高度なアクセス制御機能が装備されており、機密情報を確実に守ることができます。またデータは自動的にバックアップされており、データの保全も容易です。



高いデータ保全性

SharePoint Online は、お客様が保存したアイテムをすべて、自動的にバックアップしています。またユーザーが「ゴミ箱」から削除したアイテムも、自動的に削除済みデータバックアップに送られ、一定期間内であれば管理者による復元が可能です。



エンタープライズ検索で、目的のファイルにすばやくアクセス

SharePoint Online 上の情報は、すべて全文検索が可能です。検索結果は一覧表示だけではなく、ファイルの中身も表示されるため、目的のファイルかどうかをすぐに判別できます。



情報共有を促進するチーム サイト

チームやプロジェクト単位で情報共有を行う「チーム サイト」を、簡単に立ち上げられます。チーム サイト上には、文書共有はもちろんのこと、情報発信のための掲示板や、社員コミュニケーションのためのエンタープライズソーシャルなども、テンプレートで容易に組み込めます。



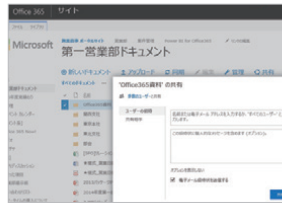
きめ細かいアクセス権制御

SharePoint Online で構築したサイトや、サイトに格納されたコンテンツに対し、きめ細かいアクセス権を設定できます。また同じ権限レベルに設定されたユーザーを、1つのグループとしてまとめて管理することも可能です。このため機密性の高い情報も、安全に保管、共有できます。



無駄や手戻りを最小化する文書管理機能

文書管理機能でバージョン管理を行えば、どのファイルが最新版なのか一目瞭然です。ファイルを間違って修正・削除した場合でも、元のバージョンへと簡単に戻せます。これによって文書作成の手戻りや無駄な作業を、最小限に抑えられます。



外部ユーザーとも情報共有可能

招待機能を利用すれば、社外の人とも情報共有が可能。権限設定は社内で管理できるため、安全かつ安心です。取引先との情報共有がスムーズになれば、コラボレーションも容易になります。

出張だって
減らせちゃう!



Next

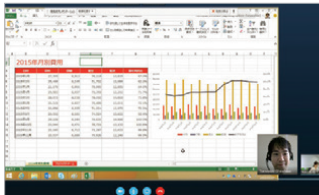
■ 離れた場所とシームレスにつながるオンライン会議。

Skype for Business Online の Web 会議を利用すれば、災害等で出社できない社員とも、フェイス トウ フェイスのコミュニケーションが行えます。またプレゼンス機能を活用すれば、災害時の安否確認も可能です。



災害時でもフェイス トウ フェイス

テレビ会議 (Web 会議) を、いつでもどこでも開催できます。会議への参加も簡単です。カメラ機能を持つ端末を使用すれば、相手の顔を見ながら「フェイス トウ フェイス」で会話ができます。



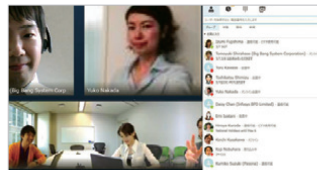
資料共有で会議を円滑化

会議進行に必要な資料も同じ画面で共有可能。事前に資料を配布しなくても、スムーズに話を進められます。



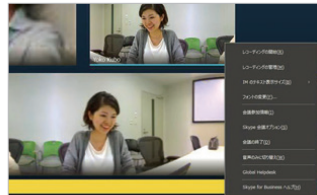
声を聞かせない時はテキストチャットで

テレビ会議だけではなく、テキスト チャットも利用可能。電車の中など声を聞かせない状況では、テキストのやり取りで会話できます。



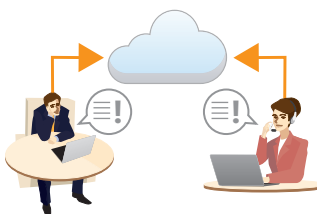
在籍確認で相手の状況を把握

社員の在籍状況や予定などを確認できる「プレゼンス機能」で、相手が会議に参加可能か否かも、すぐにわかります。災害時の安否確認にも役立ちます。



Web 会議のレコーディングも可能

Web 会議の内容を丸ごとレコーディングし、後で参照することも可能です。これによって会議に参加できなかった人も、会議内容を詳細に把握できます。Web 会議で講義を行い、それを社員に配布して e-ラーニングを行うといった使い方も考えられます。



専用システムの社内設置は不要

以前のテレビ会議といえば、高価な専用システムを特定の会議室に設置し、会議参加者がその会議室に向いて使用する、というものでした。しかしこのような専用システムはもう不要です。Skype for Business Online に必要なのは、各ユーザーが使用するノート PC やタブレットなどの日常的な端末だけ。専用の会議室に向く必要もありません。社内サーバーも不要なので、社屋が被災した場合でも利用を継続できます。

部門間の
風通しだって
よくなります!



Next

■ 安心して使える社内ソーシャル。

エンタープライズレベルのセキュリティを備えた SNS※、Yammer もご用意しています。細やかなアクセス権設定と社内ポリシーに従った運用によって、機密性の高い議論も安心して行えます。



エンタープライズレベルのセキュリティ

個人向けソーシャルと異なり、Yammer は企業向けのセキュリティを実装。細やかなアクセス権設定など、ポリシーに沿った運用が可能です。



自然に広がる横のつながり

Facebook のような SNS の機能を、社内でも使えます。カジュアルでゆるいコミュニケーションによって、人と人との横のつながりが生まれます。社内イベントの開催告知、飲み会の誘い、趣味のサークル活動に使うケースも。社長が気軽に投稿することで、経営ビジョンも浸透しやすくなるはずです。



世の中の最新情報をすばやく共有

SharePoint 上の情報の投稿はもちろん、インターネット上の情報も投稿可能。世の中でいま何が起きているのかを、社内ですばやく共有できます。



深い議論や勉強会も

テーマごとのグループを作れば、より深い議論を展開することも。社内の勉強会開催やそのフォローアップにも役立ちます。



SharePoint と連携させればより効果的

公式な情報共有は SharePoint Online、非公式な情報共有は Yammer。という使い分けをすれば、より高い効果が。SharePoint の画面に Yammer への投稿フォームを埋め込むことも可能です。

クラウド版の
Microsoft
Office も
利用可能!

※ SNS : ソーシャル ネットワーキング サービス。
人と人とのつながりを促進する、コミュニティ型の Web サイト。



Next

■ これを機に、Office のクラウド化も検討してみませんか？

Office 365 には、Word や Excel、PowerPoint などクラウド化した機能も含まれています。クラウド版 Office なら、従来の Office に比べて利便性が高まり、生産性もさらにアップします。

初期コストの悩みを解決！

Office 365 は初期コストを最低限に抑えることができ、月額料金で利用できます。そのため手軽に導入でき、経費処理も簡単になります。またインストールが簡単で、バージョンアップも自動なので、管理負担も軽減できます。支払い額は年額払いも選択できます。



マルチデバイスの悩みを解決！

Office 365 のライセンスは、デバイス単位ではなくユーザー単位で提供されます。1 ライセンスで使えるデバイス数は最大 15 台。Windows PC、MacOS、iPad、iPhone、Android、さらに自宅の PC で使っても、1 ライセンス分のコストで OK です。

PC/Mac
×5 台+
タブレット/
iPad
×5 台+
スマホ/
iPhone
×5 台

ライセンス管理の悩みを解決！

ライセンス情報は Web 上の管理センターで管理者が一括管理。また常に最新版が自動配信されるので、バージョンのばらつきも生じません。展開作業時のプロダクト キーの入力やキー管理も不要です。



Office と Office 365 との違いは？

大きく 2 つあります。1 つめは、Office 365 に含まれる Office アプリケーションがクラウド版であること。とはいえ基本的には従来通り、PC にインストールして使用することが可能。これに加えて問題修正や最新機能の追加などがインターネット経由で自動的に配信されるなど、クラウド版ならではのメリットも備えており、「バージョン管理」や「セキュリティ パッチ」を当てるといった管理負担を削減できます。もう 1 つは大容量のストレージや大容量のクラウド メールなどのグループウェア機能が、セットになって提供されている点※。Office とグループウェア機能を組み合わせて使うことで、生産性をさらに高めることができます。

これまでの Office



Office 365

国内でも
どんどん
増えている
導入事例！

※セットではなく Office アプリケーションのみや単体サービスでの販売もございます。



■ すでに Office 365 で成功している会社様も!

たとえば...

有限会社 保険センタートキオ 様

File No. 01

- 企業規模: 1人~49人
- 業種: 保険代理店
- 導入サービス: Office 365 (Exchange Online, SharePoint Online, Lync Online*)
※ Skype for Business Online の旧名

先進の情報共有環境を提供するクラウド サービス Office 365 を活用し、災害に備えたデータ保全を実現

導入メリット

- 海外に複数設置されたデータセンター間で、相互にデータ バックアップをとりながら運用。国内の災害によってデータが失われる危険性を、大幅に軽減
- 大規模企業と同等の情報共有環境を月額 600 円*から利用可能
※ 2015 年 4 月現在、同等プランである Business Essential は月額 540 円

ユーザー コメント

私たちが扱っているのは個人情報ですから、社内の運用に際してはしっかりとルールを決めて、セキュリティにも配慮する必要があります。Office 365 でも、社員 1 人 1 人の権限設定をしっかりと行ってもらいました。



有限会社 保険センタートキオ
代表取締役
永佐 悦雄 氏

詳しくはこちら↓↓

<http://aka.ms/sc-hct>

アストンマーティン 様

File No. 02

- 企業規模: 非公開
- 業種: 自動車メーカー
- 導入サービス: Office 365 (Office 365 ProPlus, Exchange Online, SharePoint Online, Lync Online*)
※ Skype for Business Online の旧名

グローバルな高級ブランドへと変貌を遂げた自動車メーカーが、Office 365 で厳格なセキュリティおよびコンプライアンスの実装に成功

導入メリット

- IRM のようなテクノロジーや訴訟ホールドを適用する機能により、セキュリティ ポリシーを容易に実装
- 最新のコミュニケーションおよび共同作業支援機能を従業員に提供

ユーザー コメント

知的財産はアストンマーティンの最も貴重な資産の 1 つです。マイクロソフトのテクノロジーがその安全性を維持してくれると信じています。マイクロソフトは安全なサービスを維持できると考えているので、非常に安心していただけるのです。



アストンマーティン社
IT インフラストラクチャ
マネージャー
Daniel Roach-Rooke 氏

詳しくはこちら↓↓

<http://aka.ms/sc-astma>

まだまだ
聞きたい
ことがある!



Office 365 の導入事例はこちら→ <http://aka.ms/s-case>

◎機能別/業種別/企業規模別に、最適な事例を検索いただくことができます。

■ お客様の疑問・不安にお応えします!

Q.1 メールをアーカイブ（データ保存）することはできますか?

A. はい、可能です。Office 365 では、Business ファミリー（中堅中小企業向けプラン）も含め、個人用アーカイブが標準で提供されているため、50 GB の中身をユーザーが自分に最適な形で、メールボックスとアーカイブ領域に分けて利用できます。さらに、Enterprise ファミリーでは、個人のメールボックスとは別の場所に無期限のメールを保存できる「訴訟ホールド」という機能を搭載しており、これにより組織に求められる長期保持や eDiscovery の要件を満たすことができます。

Q.2 Exchange Online ではメールデータはどのようにバックアップされていますか?

A. ハードウェア障害、自然災害、人為的なミスなど、サービスの可用性を中断する原因となりえるさまざまな事柄があります。データが常に利用可能であるようにするために、Exchange Online インフラストラクチャでは Exchange 2013 と同じテクノロジーを使用して、予期しない事態が発生しても、サービスが継続し、データが最新に保たれるようにしています。たとえば、Exchange Online はデータベース可用性グループという Exchange 2013 機能を使用して、Exchange Online のメールボックスを別々の Microsoft データセンターの複数のデータベースにレプリケートしています。そのため、データベース コピーの 1 つに影響を及ぼす障害が発生したとしても、最新のメールボックスデータに容易にアクセスできます。詳しくは下記サイトをご確認ください。

<http://aka.ms/exobu>

Q.3 SharePoint Online のログは取れますか?

A. はい、可能です。管理者がファイル編集およびファイル削除の監査ログを取得することができます。閲覧ログ取得の機能についても、提供予定です。

Q.4 SharePoint Online ではデータはどのようにバックアップされていますか?

A. SharePoint Online でご提供させていただいているデータ保護サービスでは、データの損失を防ぐため自動的に各サイトのデータのバックアップを取得しております。データのバックアップは 1 日に 2 回 実行され（12 時間ごと）、そのバックアップ データは 14 日間保持されます。万一障害発生などでサイト コレクション内のデータの復元が必要となった場合には、14 日前までの状態までにデータを戻す事が可能ですが、作業完了には数日ほどお時間を要しますため、前日のバックアップ データにすぐ復元するという事は難しい状態です。恐縮ではございますが、あらかじめのご了承をお願いいたします。

Q.5 ファイルのバージョン管理はできますか?

A. はい、可能です。SharePoint Online 上でバージョン管理が行えます。SharePoint Online では、同一のファイル名のままで内部的に複数のファイルを持つことができます。基本的には最新バージョンが表示されますので、ユーザーは常に最新のファイルを利用できます。また、誤ってファイルを編集し保存してしまった場合には、以前保存したバージョンを復活させて、最新バージョンと置き換えることもできます。下記サイトのビデオもご参考ください。

<http://aka.ms/sc7spo>

Q.6 MDM 機能は付いていますか?

A. Office 365 自体には現在のところ、MDM 機能はついておりません。Windows Intune をご利用いただければ、モバイルデバイス管理が可能です。

今すぐ
試したい方は...



Next

■ いますぐ試してみたい! そんなあなたに...

導入前のトライアルも可能です!



いますぐ無料で使えるトライアル版をご用意しています。以下のサイトにアクセスして、ご利用ください。

詳しくは→ <http://aka.ms/biztrial>

■ トライアルのステップ



導入前にもっと詳しい情報が欲しい方は



お客様の IT 導入について、最適なサポートを行う問い合わせ窓口をご用意しています。お客様のビジネスに最適な製品情報、技術的サポート、ライセンスの管理、購入に関するアドバイスなどをマイクロソフトのサポート担当者に電話やチャット、Twitter で問い合わせができます。

電話でのお問い合わせ

[0120-41-6755](tel:0120-41-6755)

(受付時間 9:00~17:30 土日祝、弊社指定休業日を除く)

詳しくは→ <http://aka.ms/bizsppt>

プラン一覧はこちら...



Office 365 のプラン比較

Office 365 には、中小規模企業様向けの Business ファミリーと、より大規模または高度な機能を必要とする企業様向けの Enterprise ファミリーがございます。ここでは Business ファミリーの 3 製品をご紹介します。

Office 365 ビジネス ファミリーのプラン一覧

ファミリー プラン		Business		
		B	BE	BP
Target Customer	月額課金	¥800	¥410	¥1,030
	利用ユーザー数 -上限	300		
	サポート	営業時間内テクニカル電話サポート		
Standard Services	Office アプリケーション	Business	OP	Business
	タブレット・スマートフォンからの Office 利用	●	×	●
	Web 版 Office による表示・編集	●	●	●
	組織内個人用クラウドストレージ (1 TB)	●	●	●
	メール・予定表・連絡先、スラム / ファイル対策	×	●	●
	在籍確認・Web 会議・インスタントメッセージ	×	●	●
	個人用アーカイブ、クライアントアクセス	×	●	●
	共同作業ポータル	×	●	●
	ソーシャル	×	●	●
	Delve	×	●	●
Active Directory との統合	●	●	●	
インプレス電子情報開示 (eDiscovery)	×	●	●	
Advanced Services	ハイブリッド展開	×	×	×
	データ損失防止 (DLP)	×	×	×
	インプレス保持、訴訟ホールド (容量無制限のアーカイブを含む)	×	OP	OP
	エンタープライズ VoIP	×	×	×
	Information Rights Management (IRM)	OP	OP	OP
	Forms/Excel Services、PowerView、PowerPivot、高度な検索、Business Connectivity Services (BCS)	×	×	×

B: Business BE: Business Essentials BP: Business Premium OP: オプション

その他の各種プランはこちらをご参照ください。→ <http://aka.ms/po365plan>

Microsoft Office との比較

Microsoft Office は大きく分けて、Office 365 と Office 2013 (ボリューム ライセンス版、パッケージ版、プレインストール版) がございます。企業向けとして最もオススメなのは Office 365 です。

Office 365 Business と Office 2013 との機能比較

	オススメ Office 365 Business	Office 2013 (ボリュームライセンス)	Office 2013 (PC プリインストール)
ライセンス形態	非永続ライセンス (契約期間中だけ利用できるモデル)	永続ライセンス (買い取りモデル)	永続ライセンス (買い取りモデル)
バージョン	最新を利用	購入時のものを利用/ ダウンロード可能	購入時のものを利用
バージョン管理	バージョンの統一が容易	バージョンの統一が比較的容易	デバイスごとに異なる バージョンになる
配信形式	ストリーミング形式	インストーラー形式	—
前バージョンとの共存	○	×	○
インストール時間	数分で利用可能	30 分以上	—
利用可能デバイス	1 ユーザー 5 デバイスまで 利用可能	2 デバイス (1 台はモバイル向け)	デバイスを変えると 利用できない
デバイスとの関係	デバイスの多様化に対応。 Mac 版も利用可	PC に限定	インストールされている デバイスに限定
価格	初期投資が抑えられ、 導入しやすい	計画的予算取りが必要	PC に含まれる
費用	費用予測が簡単で平準化される	バージョンアップ時に 大きなコストが発生	PC に含まれる
ライセンス管理	容易	複雑になる場合がある	PC 管理に依存
ライセンスの柔軟性	ユーザー数の増減に対応可能	ライセンス数は 追加することのみ可能	他のデバイスに 移管して使えない
マイクロソフト電話サポート	拡張電話サポート (契約企業の管理者)	テクニカル電話サポート (SA 契約企業のみ)	含まれない
企業向けクラウドストレージ	OneDrive for Business (容量 1TB)	含まれない	含まれない

※ 記載されている会社名および、製品名は、各社の商標または登録商標です。 ※ 記載されている情報は、2015 年 6 月現在のものです。 ※ 製品の仕様は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



Microsoft

日本マイクロソフト株式会社

〒 108-0075 東京都港区南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー